

## 発刊によせて

アジア・アフリカに関する言語や文化の研究成果を掲載する学術雑誌として、1968年以來刊行を続けてきた『アジア・アフリカ言語文化研究』（以下、『ジャーナル』）に、このたび新しく「別冊」シリーズを加えることとなった。

創立以來、多くの共同研究を展開してきたアジア・アフリカ言語文化研究所（AA研）では、独自の出版制度を運用し、共同研究の成果を書籍の形で刊行してきた。その点数は膨大な数にのぼり、幸いにもこれまで多くの研究者に利用されてきた。しかし近年は、オープンアクセス化が世界的に進展し、オンラインにある論文ほど多く読まれる時代となっている。またこれと並行して、外部の出版社を通じて、より広く読まれる形に編集し、出版する成果も増えており、人文系の研究者の成果公刊の選択肢は多様化していると言えよう。

一方で、アジア・アフリカの言語や文化を対象とした人文系の研究の場合、挑戦的な共同研究に取り組んでいるほど、発表する媒体や雑誌に限られているのが実情であり、それゆえに成果の迅速な公刊がかなわない場合もある。雑誌に掲載されたとしても、一つの雑誌に共同研究者の論文がまとまって掲載されることは難しい。

AA研ではこうした状況に対応し、共同研究の成果を、オープンアクセス誌という手に取りやすい形で、しかも共同研究としてよりまとまった形で公刊できるよう、専用の学術雑誌を立ち上げた。形式としては、多くの研究者に親しまれてきた『ジャーナル』に則った査読誌とし、その「別冊」という位置づけとし、共同研究ごとに特集号を組むことができるという形をとる。AA研で実施されている共同利用・共同研究課題の成果公刊を眼目としているが、それ以外の共同研究の成果公刊にも利用できる。

本誌が活用され、アジア・アフリカの研究が一層発展することを願ってやまない。

アジア・アフリカ言語文化研究所長  
星 泉